

試験研究発表題名

平成19年度 試験研究発表題名一覧

1. 北原英治. 温暖化に取り残された野ネズミ. 山林, 1482: 46-49. 2007.11
2. 山田文雄, 橋本琢磨 ((財) 自然環境研究センター), 阿部愼太郎 (環境省奄美野生生物保護センター), 永井弓子 (環境省奄美野生生物保護センター), 小高信彦, 七里浩志 (環境省やんばる野生生物保護センター). トゲネズミ属 3種の捕獲調査. 日本哺乳類学会2007年度大会プログラム・講演要旨集: 81. 2007.09
3. 西山千草 (北海道大学), 山田文雄, 橋本琢磨 ((財) 自然環境研究センター), 阿部愼太郎 (環境省奄美野生生物保護センター), 福井由宇子, 諸橋憲一郎, 松田洋一 (北海道大学), 黒岩麻里 (北海道大学). Sry遺伝子をもたないアマミトゲネズミにおける性分化関連遺伝子の解析. 日本分子生物学会年会講演, 30: 309. 2007.10
4. 西山千草 (北海道大学), 山田文雄, 橋本琢磨 ((財) 自然環境研究センター), 阿部愼太郎 (環境省奄美野生生物保護センター), 福井由宇子, 諸橋憲一郎, 松田洋一 (北海道大学), 黒岩麻里 (北海道大学). アマミトゲネズミにおけるM33遺伝子の発現解析. 染色体学会講演要旨集: 25-26. 2007.11
5. Kobayashi, T., F. Yamada (山田文雄), T. Hashimoto, S. Abe, Y. Matsuda and A. Kuroiwa. Exceptional minute sex-specific region in the X0 mammal, Ryukyu spiny rat. Chromosome Research, 15: 175-187. 2007.07
6. Nakamura, T., A. Kuroiwa, C. Nishida-Umehara, K. Matsubara, F. Yamada (山田文雄) and Y. Matsuda. Comparative chromosome painting map between two Ryukyu spiny rat species, Tokudaia osimensis and Tokudaia tokunoshimensis (Muridae, Rodentia). Chromosome Research, 15: 799-806. 2007.07
7. 辻井達一, 山田文雄, 安藤元一, 吉開みなジュディー. インド・マングース探訪記. 北海道ネイチャーマガジン「モーリー」, 17: 34-37. 2007.12
8. 長野義春, 草刈秀紀, 山田文雄, 竹村真由子, 五箇公一. 沖縄・奄美大島・本州 (那覇市・やんばる・名瀬市・越前市) の外来種問題に対する地域住民の意識比較. 日本哺乳類学会2007年度大会プログラム・講演要旨集: 126. 2007.09
9. 布目三夫, 鳥居春巳, 山田文雄, 土屋公幸, 鈴木仁. ニホンノウサギにみられる冬毛の白化が集団の遺伝的分化に与える影響の検証. 日本哺乳類学会2007年度大会プログラム・講演要旨集: 93. 2007.09
10. 山田文雄. 奄美諸島に生き残ったアマミノクロウサギの生態と保護. 森林野性動物研究会大会資料, 40: 2 (071012 森林総合研究所関西支所). 2007.12
11. 山田文雄. 森林に暮らす哺乳類の子作りと子育て (4) ウサギ. 森林総合研究所関西支所研究情報, 87: 4. 2008.02
12. 山田文雄. 希少猛禽類生息地における餌動物としての哺乳類. 水源地生態研究セミナー講演集, 10: 89-103. 2007.10

13. 山田文雄．猛禽類の餌としてのノウサギの生息状況と今後の課題．林業と薬剤，181：13-18．2007.12
14. 山田文雄．生きもののつながり 雑学コーナー[ニホンノウサギ]．私たちの自然，48(529)：24．2007.09
15. 山田文雄．Actual condition and conservation of Amami rabbit．平成19年度琉球諸島世界自然遺産候補地検討調査業務海外専門家視察（説明会）講演要旨．2008.03
16. 山田文雄．Impacts of invasive small Indian mongoose *Herpestes javanicus* on native species and the control projects in Amami-Oshima Island, Japan．北海道大学大学院教育改革支援プログラム「人文科学における実証的研究者の教育拠点」．2008.02
17. 山田文雄，石井信夫．特定外来生物「マングース防除事業」を考える．日本哺乳類学会2007年度大会プログラム・講演要旨集：61．2007.09
18. 山田文雄，黒田慶子．平成19年度地域科学技術理解増進活動推進事業機関活動支援「古都の里山健康調査 - 千年の森と文化を守るには - 」の実施の紹介．森林総合研究所所報，524：2-3．2008.03
19. 亘悠哉，阿部真太郎，山田文雄，宮下直．冬鳥シロハラノ飛来が外来種マングースの繁殖力を上昇させる．日本哺乳類学会2007年度大会プログラム・講演要旨集：168．2007.09
20. 五箇公一，草刈秀紀，山田文雄，小谷浩示．外来生物法の光と陰 - 制定5年後の見直しに向けて - ．日本生態学会大会講演要旨集，55：20．2008.03
21. 石口泰子（北海道大学），山田文雄，橋本琢磨（（財）自然環境研究センター），阿部慎太郎（環境省奄美野生生物保護センター），松田洋一（北海道大学），黒岩麻里（北海道大学）．X0型トゲネズミにおけるY染色体消失過程の推定．日本分子生物学会年会講演要旨集，30：308．2007.10
22. 亘悠哉，永井弓子，山田文雄，迫田拓，倉石武，阿部慎太郎（環境省奄美野生生物保護センター），里村兆美．奄美大島の森林におけるイヌの食性：特に希少種に対する捕食について．保全生態学研究 (Japanese Journal of Conservation Ecology)，12：28-35 (2007)．2007.08
23. 亘悠哉，阿部慎太郎，山田文雄，宮下直．系外資源の年変動と繁殖価の季節性を考慮した外来種管理 - 奄美大島におけるマングース対策試論 - ．日本生態学会大会講演要旨集，55：373．2008.03
24. Masaki, T, Osumi, K (大住克博)，Takahashi, K, et al.．Effects of microenvironmental heterogeneity on the seed-to-seedling process and tree coexistence in a riparian forest．ECOLOGICAL RESEARCH，22：724-734．2007.09
25. Osumi, Katsuhiko (大住克博) and Ishii, Atsuko．Formation of oak-dominant “Satoyama” working forests under intensive human influences in Japan．Woodland Cultures in Time and Space: tales from the past, messages for the future, Abstracts:69．2007.09
26. 大住克博．発展するための技術と持続するための技術．森林総合研究所関西支所研究情報，86：1．2007.11

27. 大住克博, 石井敦子. コナラのかくも多き萌芽. 日本森林学会大会学術講演集, 118: K07. 2007.04
28. 沖慎司 (秋田県立大学), 秋好達朗 (秋田県立大学), 星崎和彦 (秋田県立大学), 星野大介, 柴田銃江, 大住克博, 正木隆. 溪畔林構成樹種の攪乱依存性 - ギャップと氾濫原の稚樹分布の比較 -. 日本生態学会大会講演要旨集, 55: 335 (P2-066). 2008.03
29. 正木隆, 鈴木和次郎, 大住克博. 気候変動でブナの豊凶パターンが変化する可能性. 日本森林学会大会学術講演集, 119: N10. 2008.03
30. 大住克博, 石井敦子. 比良山麓里山林におけるコナラ亜属 4 樹種の結実量の変動. 日本森林学会大会学術講演集, 119: P2a28. 2008.03
31. 大住克博. 変容する里山林 - ナラ枯れの舞台 -. ナラ枯れと里山の健康, 林業改良普及双書157, 全国林業改良普及協会: 89-107. 2008.03
32. 大住克博. 里山林と人: 後は野となれ山となれとはいかぬが定め. 日本生態学会大会講演要旨集, 55: 143. 2008.03
33. 岡裕泰. 「森林・林業・木材産業の将来予測」と森林資源モニタリング. 森林総合研究所関西支所研究情報, 87: 1. 2008.02
34. 岡裕泰. 世界の森林資源と林産物需給の長期見通し. 山林, 1476: 40-45. 2007.05
35. 岡裕泰. 日本の森林・林業の長期シナリオ. 山林, 1481: 31-38. 2007.10
36. 岡裕泰. FAO林産物統計に基づく林産物需給モデル化における諸問題. 森林資源管理と数理モデル第8回シンポジウムFORMATH Tohoku 2008講演要旨集. 2008.03
37. 岡裕泰. FAO林産物統計にみる輸出入量の整合性分析. 平成19年度違法伐採対策等のための持続可能な森林経営推進計量モデル開発事業報告書, 森林総合研究所: 13-14. 2008.03
38. 岡裕泰. FAO林産物統計にみる投入産出の整合性分析と生産量等の補正. 平成19年度違法伐採対策等のための持続可能な森林経営推進計量モデル開発事業報告書, 森林総合研究所: 44-54. 2008.03
39. 岡裕泰. 森林・林産物計量モデル開発の現状. 平成19年度違法伐採対策等のための持続可能な森林経営推進計量モデル開発事業報告書, 森林総合研究所: 55-58. 2008.03
40. 岡裕泰. 違法伐採とその経済影響シミュレーションモデルに関する先行研究. 平成19年度違法伐採対策等のための持続可能な森林経営推進計量モデル開発事業報告書, 森林総合研究所: 59-133. 2008.03
41. 岡裕泰. FAOの森林資源統計・林産物統計への各国報告状況. 平成19年度違法伐採対策等のための持続可能な森林経営推進計量モデル開発事業報告書, 森林総合研究所: 1-12. 2008.03

42. 岡裕泰, 立花敏, 久保山裕史, 野田英志. 森林・林業・木材産業の将来を見通す. 平成18年度研究成果選集, 森林総合研究所: 44. 2007.07
43. 岡裕泰, 下田佳奈(京都大学), 仲摩栄一郎((財)国際緑化推進センター), 上村佳奈(東京大学). 国公有林での伐採権料調査: 森林コンセッション政策と収入システム - 持続可能な熱帯林業への国の経験と政策の変化 -. 平成19年度違法伐採対策等のための持続可能な森林経営推進計量モデル開発事業報告書, 森林総合研究所: 176-218. 2008.03
44. 細田育広, 村上亘. 皆伐後の植生回復に伴う水流出の長期的な変動について - 釜淵4号沢の場合 -. 日本森林学会大会学術講演集, 118: P2b23. 2007.04
45. 岡野通明, 細田育広, 小南裕志, 深山貴文, 吉武孝, 鈴木純(信州大学), 青島史子(ホーヘンハイム大学). UV-Bのパッシブ制御に関する考察. 日本森林学会大会学術講演集, 118: M11. 2007.04
46. 細田育広, 深山貴文, 小南裕志, 岡野通明. 蒸発散気候値と流域水収支から植被状態の年々変動を推定する試み. 水文・水資源学会研究発表会要旨集, 2007: 164-165. 2007.07
47. 玉井幸治, 浅野志穂, 宮縁育夫, 清水貴範, 細田育広, 清水晃. 「去川」, 「竜の口山」森林理水試験地における森林攪乱が流況曲線に及ぼす影響の比較. 水文・水資源学会研究発表会要旨集, 2007: 180-181. 2007.07
48. 村上亘, 細田育広. 治山堰堤建設に伴う後背地の地形と植生の変化. 季刊地理学, 59(2): 87-98. 2007.08
49. 細田育広, 村上亘. 釜淵森林理水試験地観測報告 - 3・4号沢試験流域 - (1961年1月~2000年12月). 森林総合研究所研究報告, 6(3): 163-213. 2007.09
50. 細田育広, 村上亘, Roy C. Sidle(ロイ シー サイドル)(京都大学). 水位計自記紙の記録解像度が流出水量の値に及ぼす影響について. 水文・水資源学会誌, 20(6): 505-518. 2007.11
51. 細田育広, 小南裕志, 深山貴文, 坪山良夫, 松浦純生. 竜ノ口山森林理水試験地の降雨・流出概況 - 2007年1~12月 -. 竜ノ口山国有林における山地森林水保全機能調査事業報告書, 19: 86. 2008.03
52. Hiroki Ito(伊東宏樹), Teruaki Hino(日野輝明). Dwarf bamboo as an ecological filter for forest regeneration (森林更新の生態的フィルターとしてのササ). Ecological Research, 22: 706-711. 2007.07
53. 日野輝明. 大台ヶ原における生物間相互作用に基づく森林生態系管理. シンポジウム「共生環境学の展望 - フィールド科学研究と大学FD」要旨: 5. 2008.02
54. 伊東宏樹, 日野輝明, 岩本宏二郎, 島田和則, 勝木俊雄. 兵庫県猪名川町における里山林管理と林床植生との関係. 日本生態学会大会講演要旨集, 55: 465. 2008.03
55. 近藤慶一(名城大学), 阿部晃久(名城大学), 新妻靖章(名城大学), 日野輝明. 里山林管理がオサムシ科甲虫の多様性を高めるか?. 日本生態学会大会講演要旨集, 55: 473. 2008.03

56. 古澤仁美, 日野輝明, 金子真司. フンカゴ法によるシカ糞の分解過程の定量評価. 日本森林学会誌, 89: 297-301. 2007.08
57. 西中康明 (大阪府立大学), 日野輝明, 松本和馬, 石井実 (大阪府立大学). 兵庫県猪名川町の里山林におけるチョウ類の群集構造と種多様性. 日本昆虫学会大会講演要旨集, 67: 71. 2007.09
58. 日野輝明. 故中村登流博士追悼記事「片想いの鳥類研究者」. 鳥学通信, 19: 4. 2008.02
59. 日野輝明, 西中康明 (大阪府立大学), 斉藤三郎 (名城大学), 阿部晃久 (名城大学), 新妻靖章 (名城大学), 伊東宏樹, 松本和馬. 薪炭林施業は里山の生物多様性を高める. 日本生態学会大会講演要旨集, 55: 207. 2008.03
60. Hirayama Kimiko (平山貴美子) (日本学術振興会), Ishida Kiyoshi (石田清), Setsuko Suzuki (鈴木節子) (名古屋大学), Tomaru Nobuhiro (戸丸信弘) (名古屋大学). Reduced seed production, inbreeding, and pollen shortage in a small population of a threatened tree, *Magnolia stellata*. (絶滅危惧樹木シデコブシの小集団における種子生産の減少、近親交配及び花粉不足). *Biological Conservation*, 136: 315-323. 2007.05
61. Kato Teiko (加藤禎考) (奈良女子大学), Ishida Kiyoshi (石田清), Sato Hiroaki (佐藤宏明) (奈良女子大学). The evolution of nettle resistance to heavy deer browsing. (イラクサにおいて進化したシカの強い採食圧に対する防御形質). *Ecological Research*, DOI 10.1007/s11284-007-0387-7 (オンライン版). 2007.06
62. Setsuko S. (鈴木節子) (名古屋大学), Tamaki I. (玉木一郎) (名古屋大学), Ishida K. (石田清), Tomaru N. (戸丸信弘) (名古屋大学). Relationships between flowering phenology and female reproductive success in the Japanese tree species *Magnolia stellata*. (日本産樹木シデコブシにおける開花フェノロジーと雌繁殖成功の関係). *Canadian Journal of Botany*, 86: 248-258. 2008.03
63. 石田清. 絶滅危惧種シデコブシの現状と遺伝的管理の可能性. 森林総合研究所関西支所年報, 48: 62-64. 2007.10
64. 石田清, 平山貴美子 (日本学術振興会), 菊地賢, 金指あや子. 希少木本種における遺伝的荷重と異系交配弱勢. 日本生態学会大会講演要旨集, 55: 91 (W17). 2008.03
65. 井上みずき (京都大学), 石田清, 谷尚樹. 雌雄異株クローナル植物ヤチヤナギのクローン構造. 日本森林学会大会学術講演集, 119: P2a19. 2008.03
66. 清野嘉之, 佐藤保, 石田清, 五十嵐哲也, 奥田史郎, 稲垣善之, 伊東宏樹. スギ花粉症対処の森林管理の課題と展望. 日本森林学会大会学術講演集, 119: N16. 2008.03
67. 岡崎純子 (大阪教育大学), 原綾子 (大阪教育大学), 石田清. 雄性両全性異株の維持機構: マルバアオダモ雄株花粉は両性花株花粉より多くの種子を残せるのか. 日本生態学会大会講演要旨集, 55: 178 (B14). 2008.03
68. 玉木一郎 (名古屋大学), 石田清, 鈴木節子 (名古屋大学), 戸丸信弘 (名古屋大学). 絶滅危惧種シデコブシにおける交配様式と後期近交弱勢. 日本生態学会大会講演要旨集, 55: 91 (W17). 2008.03

69. 玉木一郎 (名古屋大学), 鈴木節子 (名古屋大学), 石田清, 戸丸信弘 (名古屋大学). 愛知県渥美半島と三重県におけるシデコブシ集団の交配様式と後期近交弱勢の推定. 日本森林学会大会学術講演集, 118: N13. 2007.04
70. 松井浩幸 (大阪教育大学), 石田清, 岡崎純子 (大阪教育大学). 人工林化が林床性植物に与える影響: ミヤコアオイの遺伝構造の解析. 日本生態学会大会講演要旨集, 55: 419. 2008.03
71. 大原偉樹. (研究資料) スギ人工林の間伐にともなう林床植生の変化と水土保持機能に関する研究の必要性 (PDF: 1,083KB). 森林総合研究所研究報告, 6. 2(403): 127-134. 2007.06
72. 大原偉樹. スギ人工林の間伐にともなう水土保持機能に関する研究の必要性. 森林総合研究所東北支所研究情報, 7(1): 1-6. 2007.08
73. Ishida, A., Uemura, A. and Yamashita, N. (山下直子). Pre-determinant and light-acclimation capacity in leaves under changing light conditions. Phenotypic plasticity in response to environmental changes: Scaling from the molecular to ecosystem levels. JAPAN-US Cooperative Science Program S2-9. 2007.10
74. Lei, TT., Yamashita, N. (山下直子), and Miyaura, T. Ecophysiological differences between a summer-deciduous shrub (*Daphne pseudo-mezereum*) and its winter-deciduous close relative (*Daphne pseudo-mezereum* var. *koreana*). 日本生態学会大会講演要旨集, 55: 227. 2008.03
75. Nishida T., Yamashita N. (山下直子), Asai M., Kurokawa S., Kato H., Enomoto T., Caley P., Pheloung P., Lonsdale W. M. and Groves R. H. Adaptating the Australian weed risk assessment system for use in Japan. Proceedings of the 9th International Conference on the Ecology and management of Alien Plant Proceedings of the Invasions: p173. 2007.09
76. 山下直子. 小笠原諸島における帰化生物の根絶とそれに伴う生態系の回復過程の研究 2-2 アカギ根絶後の再加入リスクの評価. 環境保全研究成果集(18) Environmental Research in Japan, 2006 (環境省総合環境政策局総務課環境研究技術室編): 15-4 ~ 15-5. 2007.08
77. 山下直子. 小笠原諸島の侵入樹木アカギの生理生態的馴化および可塑性に関する研究. 北海道大学演習林研究報告, 65. 1: 19-59. 2008.03
78. 河原孝行, 山下直子. レブンアツモリソウの保全生物学. 森林総合研究所北海道支所研究レポート, 97: 1-6. 2007.11
79. 山下直子, 河原孝行, 倉本恵生, Lei TT. 雌性両全異株ナニワズの繁殖特性. 日本生態学会大会講演要旨集, 55: 417. 2008.03
80. 五十嵐哲也. 針葉樹人工林の下層植生に林分配置がおよぼす影響. 森林総合研究所関西支所年報, 48: 45. 2007.10
81. 平井敬三, 野口享太郎, 溝口岳男, 金子真司, 高橋正通. 森林土壌の現地窒素無機化における下層土および季節別の寄与. 森林立地, 49(1): 51-59. 2007.06

82. 吉永秀一郎, 金子真司, 志知幸治, 篠宮佳樹, 鳥居厚志, 田中永晴, 溝口岳男, 大貫靖浩, 阿部俊夫. 日本の森林流域における窒素収支. 日本土壌肥料学会講演要旨集, 53: 4. 2007.08
83. 溝口岳男, 平野恭弘, 谷川東子. 異なる斜面位置に生育する壮齢ヒノキの生葉, 葉リター, 細根の養分ステータス. 日本森林学会大会学術講演集, 119: C27. 2008.03
84. 溝口岳男, 平野恭弘, 谷川東子, 金子真司, 古澤仁美, 上田泰弘 (近畿大学), 伏屋尚香 (近畿大学). 比叡山壮齢ヒノキ林表層土壌の空間異質性. 日本森林学会大会講演要旨集, 118: P3d36. 2007.04
85. 上田泰弘 (近畿大学), 溝口岳男, 平野恭弘, 谷川東子, 伏屋尚香 (近畿大学). 比叡山壮齢ヒノキ林内の下層植生パッチがヒノキ菌根に及ぼす影響. 日本森林学会大会講演要旨集, 118: P3c35. 2007.04
86. 池田重人, 高橋正通, 稲垣昌宏, 金子真司, 吉永秀一郎, 相澤州平, 志知幸司, 岡本透, 溝口岳男, 鳥居厚志, 大貫靖浩. 「森林降水渓流水質データベース (FASC-DB)」の公開. 日本森林学会大会学術講演集, 119: P3b03. 2008.03
87. 長谷川元洋, 橋本みのり (神奈川県立生命の星地球博物館), 福山研二, 牧野俊一, 大河内勇, 後藤秀章, 岡部貴美子, 溝口岳男, 阪田匡司, 田中浩. 広葉樹林とスギ人工林の土壌動物群集は異なるのか?. 日本森林学会大会学術講演集, 118: P1i04. 2007.04
88. 壁谷大介, 齋藤智之, 溝口岳男. 異なる地形に生育するヒノキの葉の窒素濃度. 日本森林学会大会学術講演集, 118: P3g38. 2007.04
89. Masako Dannoura (檀浦正子) (神戸大学), Yuji Kominami (小南裕志), Takafumi Miyama (深山貴文), Hiroyuki Oguma (小熊宏之), Naoki Makita (牧田直樹) (神戸大学), Mayuko Jomura (上村真由子) (農業環境技術研究所), Yoichi Kanazawa (金澤洋一) (神戸大学). Development of the system for simultaneous measurement of root respiration and root dynamics in Yamashiro Experimental Forest, Central Japan. Proceedings of Asia flux work shop 2007: 36. 2007.10
90. Mayuko Jomura (上村真由子) (農業環境技術研究所), Yuji Kominami (小南裕志), Koji Tamai (玉井幸治), Takafumi Miyama (深山貴文), Yoshiaki Goto (後藤義明), Masako Dannoura (檀浦正子) (神戸大学), Yoichi Kanazawa (金澤洋一) (神戸大学). The carbon budget of coarse woody debris in a temperate broad-leaved secondary forest in Japan (日本の温暖性広葉樹二次林における粗大有機物の炭素収支). Tellus, B59(2): 211_222. 2007.04
91. Mayuko Jomura, Yuji Kominami (小南裕志), Masako Dannoura and Yoichi Kanazawa. Spatial variation in respiration from coarse woody debris in a temperate secondary broad-leaved forest in Japan. Forest ecology management, 255(1): 149-155. 2008.01
92. N. Misawa, M. Jomura, Y. Kanazawa and Y. Kominami (小南裕志). Long Term Estimation of Forest Production by a Tree Ring Analysis in a Temperate Broad-Leaved Secondary Forest in Japan - Evaluation by a Comparison Between Subplots -. Proceedings of Asia flux work shop 2007: 36. 2007.10

93. Naoki Makita (牧田直樹)(神戸大学), Masako Dannoura (檀浦正子)(神戸大学), Yuji Kominami (小南裕志), Yasuhiro Hirano (平野恭弘), Takeo Mizoguchi (溝口岳男) and Yoichi Kanazawa (金澤洋一). Variation in fine root respiration with root architecture. (細根形態に関連した細根呼吸量の変化) . Proceedings of Asia flux work shop 2007 : 77 . 2007.10
94. Yuji Kominami (小南裕志), Mayuko Jomura (上村真由子)(農業環境技術研究所), Masako Dannoura (檀浦正子)(神戸大学), Takafumi Miyama (深山貴文), Koji Tamai (玉井幸治), Yoshiaki Goto (後藤義明), Yoichi Kanazawa (金澤洋一)(神戸大学). Biometric and eddy-covariance-based estimates of net primary productivity for a warm temperate mixed forest in Japan _Uncertainty of tower, chamber and biometric measurements-. Proceedings of Asia flux work shop 2007 : 11 . 2007.10
95. 奥村智恵(京都大学), 谷晃(静岡県立大学), 小南裕志, 小杉緑子(京都大学), 高梨聡, 深山貴文, 東野達(京都大学). 二次落葉広葉樹林におけるコナラのイソブレン放出に関する研究. 農業環境工学関連学会合同大会講演要旨集, 2007 : 00550 . 2007.09
96. 小南裕志, 深山貴文, 小野圭介(筑波大学), 平田竜一(国立環境研究所). 第5回AsiaFlux Workshop 2006 International Workshop on Flux Estimation over Diverse Terrestrial Ecosystems in Asia (アジアフラックス 2006 アジアの様々な生態系におけるフラックスの推定に関する国際集会) 報告. 森林科学, 50 : 51-53 . 2007.06
97. 小南裕志, 深山貴文, 玉井幸治, 檀浦正子(神戸大学), 奥村智恵(京都大学). 複雑地形上の森林におけるCO₂貯留量. 日本森林学会大会学術講演集, 119 : P2f30 . 2008.03
98. 大谷義一, 北村兼三, 小南裕志, 深山貴文, 溝口康子, 中井裕一郎, 齋藤武史, 清水貴範, 高梨聡, 玉井幸治, 渡辺力, 山野井克己, 安田幸生, 岩田拓記(筑波大学). 国内温帯森林生態系の純生産量と年々変動 - FFPRI FluxNetの観測結果より - . 農業環境工学関連学会合同大会, 2007 : 00129 . 2007.09
99. 朝岡良浩, 小南裕志, 竹内由香里, 大丸裕武, 田中信行. 衛星観測に基づく積雪水量の広域推定と融雪係数の地域特性. 水文水資源学会誌, 20(6) : 519-529 . 2008.01
100. 牧田直樹(神戸大学), 檀浦正子(神戸大学), 小南裕志, 平野恭弘, 溝口岳男, 金澤洋一(神戸大学). コナラの細根における形態特性と呼吸量の関係. 日本森林学会大会学術講演集, 119 : J14 . 2008.03
101. 檀浦正子(神戸大学), 小南裕志, 牧田直樹(神戸大学), 金澤洋一(神戸大学). 樹木根の炭素動態を呼吸量から考える. 日本森林学会大会学術講演集, 119 : J01 . 2008.03
102. 濱田昇吾(神戸大学), 玉井幸治, 小南裕志, 大貫泰浩, 深山貴文, 清水貴範, 大谷義一. 土壌呼吸の地形スケールでの空間変動に環境要因と土壌要因が及ぼす影響の評価. 日本森林学会大会学術講演集, 118 : J20 . 2007.04
103. 三澤範子(神戸大学), 上村真由子(農業環境技術研究所), 金澤洋一(神戸大学), 小南裕志. 広葉樹二次林における年輪解析を用いた地上部生長量の長期推定. 日本森林学会大会学術講演集, 118 : P1g11 . 2007.04

- 104 . Tanikawa, T. (谷川東子), Takahashi, M. (高橋正通), Imaya, A. (今矢明宏), Ishizuka, K. (石塚和裕). Highly accumulated sulfur and its mineralogical relations in Andisols (アンディソルにおけるイオウの大量蓄積と, その土壤鉱物特性との関係). The proceedings of the International Symposium on Forest Soils and Ecosystem Health 2007 (2007年森林土壌と生態系の健全性に関する国際集会). Centre for forestry and horticultural research griffith university, Brisbane : 111-112 . 2007.08
- 105 . 谷川東子, 高橋正通, 野口享太郎, 重永英年, 長倉淳子, 赤間亮夫, 石塚和裕 . 衰退林分を含む奥日光地域における樹木と土壌の栄養診断的調査 . 日本森林学会大会学術講演集 , 119 : P3b40 . 2008.03
- 106 . 谷川東子, 相澤州平, 高橋正通, 溝口岳男, 吉永秀一郎 . 北関東低山帯の森林小流域における土壌中のイオウ分布 . 日本森林学会大会学術講演集 , 118 : P1d07 . 2007.04
- 107 . 谷川東子 . 森林土壌に含まれるイオウのかたち . 森林総合研究所関西支所研究情報 , 87 : 2 . 2008.02
- 108 . Dannoura, M. (檀浦正子)(神戸大学), Hirano, Y. (平野恭弘), Igarashi, T. (五十嵐鉄朗), Ishii, M. (石井政博), Aono, K. (青野健治)((株) 環境総合テクノス), Yamase, K. (山瀬敬太郎)(兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター) and Kanazawa, Y. (金澤洋一)(神戸大学) . Radar detection of roots of Japanese coniferous trees. (レーダによる日本針葉樹木根検出). Fourth International Symposium on Dynamics of Physiological Processes in Roots of Woody Plants : 194 . 2007.09
- 109 . Hirano, Y. (平野恭弘) and Brunner, I. (スイス森林研究所). Use of callose formation in roots as an indicator of aluminum stress in forest trees. (アルミニウムストレスの指標としての樹木根カロースの有効性). Fourth International Symposium on Dynamics of Physiological Processes in Roots of Woody Plants : 134 . 2007.09
- 110 . Hirano, Y. (平野恭弘), Mizoguchi, T. (溝口岳男) and Brunner, I. (スイス森林研究所). Root parameters of forest trees as sensitive indicators of acidifying pollutants -a review of research of Japanese forest trees-. (酸性汚染物質の感受性指標としての樹木根-日本樹木の再検討). Journal of Forest Research , 12 : 134-142 . 2007.04
- 111 . Hirano, Y. (平野恭弘), Noguchi, K. (野口享太郎) and Miura, S. (三浦寛). Development and functions of roots of forest trees in Japan. (日本における樹木根の成長と機能). Journal of Forest Research , 12 : 75-77 . 2007.04
- 112 . Hirano, Y. (平野恭弘), Noguchi, K. (野口享太郎), Fujimaki, R. (藤巻玲路)(横浜国立大学), Kajimoto, Y. (梶本卓也), Ohashi, M. (大橋瑞江)(兵庫県立大学) Sakai, M. (酒井佳美), Hishi, T. (菱拓雄)(九州大学), Konôpka, B. (スロバキア森林研究所) and Brunner, I. (スイス森林研究所) . Development and function of roots of forest trees in Japan. (日本の樹木根の成長と発達). Fourth International Symposium on Dynamics of Physiological Processes in Roots of Woody Plants : 135 . 2007.09
- 113 . Vanguelova, E. (イギリス森林研究所), Hirano, Y. (平野恭弘), Eldhuset, T. (ノルウェー森林研究所), Sas-Paszt, L. (ポーランド果樹研究所), Bakker, M. (フランスENITA), Püttsepp, Ü. (スウェーデン農科大学), Brunner, I. (スイス森林研究所), Löhmus, K. (タルト大学) and Godbold, D. (ウェールズ大学) . Tree fine root Ca/Al molar ratio -Indicator of Al and acidity stress. (樹木細根のCa / Alモル比-アルミニウムと酸性ストレスの指標). Fourth International Symposium on Dynamics of Physiological Processes in Roots of Woody Plants : 80 . 2007.09

114. Vanguelova, E. (イギリス森林研究所), Hirano, Y. (平野恭弘), Eldhuset, T. (ノルウェー森林研究所), Sas-Paszt, L. (ポーランド果樹研究所), Bakker, M. (フランスENITA), Püttsepp, Ü. (スウェーデン農科大学), Brunner, I. (スイス森林研究所), Löhmus, K. (タルト大学) and Godbold, D. (ウェールズ大学). Tree fine root Ca / Al molar ratio -indicator of Al and acidity stress. (樹木細根のCa / Alモル比-アルミニウムと酸性ストレスの指標). *Plant Biosystems*, 141: 460-480. 2007.1
115. 檀浦正子 (神戸大学), 金澤洋一 (神戸大学), 平野恭弘, 五十嵐鉄朗 ((株)環境総合テクノス), 石井政博 ((株)環境総合テクノス), 青野健治 ((株)環境総合テクノス), 山瀬敬太郎 (兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター). 非破壊的手法を用いた根系観察の試み. 日本森林学会大会学術講演集, 118: D01. 2007.04
116. 平野恭弘, Richter Anika, Brunner Ivano (スイス森林研究所). アルミニウム環境下におけるヨーロッパパナ苗の根端カロス. 日本森林学会大会学術講演集, 118: D11. 2007.04
117. 平野恭弘, 檀浦正子 (神戸大学), 五十嵐鉄朗 ((株)環境総合テクノス), 石井政博 ((株)環境総合テクノス), 青野健治 ((株)環境総合テクノス), 山瀬敬太郎 (兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター), 牧田直樹 (神戸大学), 金澤洋一 (神戸大学). 地中レーダ法による樹木根検出の制限要因. 日本森林学会大会学術講演集, 119: J07. 2008.03
118. Koji Tamai (玉井幸治), Takafumi Miyama (深山貴文), Takanori Shimizu (清水貴範), Yuji Kominami (小南裕志), Yuichiro Nakai (中井裕一郎), Yoshikazu Ohtani (大谷義一). A dry-battery-powered closed-chamber system for measuring the CO₂ efflux from numerous stems. *Proceedings of Asia flux work shop 2007*: 33. 2007.10
119. Takafumi Miyama (深山貴文), Motonori Okumura (奥村智典) (京都大学), Akira Tani (谷晃) (静岡県立大学), Yuji Kominami (小南裕志), Ikuhiro Hosoda (細田育広), Masako Dannoura (檀浦正子) (神戸大学) and Susumu Tohno (東野達) (京都大学). DIURNAL VARIATION OF ISOPRENE CONCENTRATION ABOVE YAMASHIRO EXPERIMENTAL FOREST, CENTRAL JAPAN (中部日本の山城試験地におけるイソプレン濃度の日中変動). *Proceedings of Asia flux work shop 2007*: 84. 2007.10
120. 深山貴文. コナラは汗っかき? - イソプレンのご紹介 -. 森林総合研究所関西支所研究情報, 85: 2. 2007.08
121. 橋本太郎 (神戸大学), 深山貴文, 小南裕志, 東野達 (京都大学), 金澤洋一 (神戸大学). 落葉広葉樹二次林におけるメタン放出について. 日本森林学会大会学術講演集, 119: P2f31. 2008.03
122. 深山貴文, 小南裕志, 細田育広, 玉井幸治. チャンバー法と乱流変動法による山城試験地の夜間生態系呼吸量推定結果の比較. 森林総合研究所関西支所年報, 48: 46. 2007.10
123. 深山貴文, 小南裕志, 上村真由子 (農業環境技術研究所), 檀浦正子 (神戸大学). 地上部および地下部樹木呼吸量の測定について. 日本森林学会大会学術講演集, 118: P2a17. 2007.04
124. 深山貴文, 奥村智恵 (京都大学), 谷晃 (静岡県立大学), 小南裕志, 細田育広, 檀浦正子 (神戸大学), 東野達 (京都大学). 複雑地形上のコナラ林におけるイソプレン濃度の日変化. 日本森林学会大会学術講演集, 119: P2f32. 2008.03

125. Oi T. (大井徹) and Furusawa H. (古澤仁美) . Nutritional condition and food habit of Japanese black bears killed for intruding human settlements in the autumn of 2004. . bstracts of 18th International Conference on Bear Research and Management : pp198 . 2007.11
126. 下稲葉さやか (京都大学), 大井徹 . 西中国個体群のツキノワグマの歯の咬耗段階より年齢推定を試みる . 日本哺乳類学会2007年度大会自由集会 . 2007.09
127. 村上興正, 大井徹 . 特定鳥獣保護管理計画の現状と課題 . 哺乳類科学, 47 : 127-130 . 2007.07
128. 大井徹 . クマダスで被害の未然防除 - 出沒メカニズムと出沒予測手法の研究 - . J B N緊急クマシンポジウム & ワークショップ報告, (日本クマネットワーク)岐阜市 : 87-90 . 2007.11
129. 大井徹 . クマ大量出沒の謎 . 大学出版部協会編「ナチュラルヒストリーの時間」, 大学出版部協会 : pp72-76 . 2007.06
130. 大井徹 . 2004年秋に大量出沒したツキノワグマの栄養状態と食性履歴 . 日本哺乳類学会2007年度大会プログラム・講演要旨集 : 98 . 2007.09
131. 大井徹 . ニホンザルの保護と管理の狭間から - 分布域管理に向けて . 霊長類研究, 23supplement : x . 2007.07
132. 大井徹 . サルの捕獲による被害対策を巡って . 哺乳類科学, 47 : 153-156 . 2007.07
133. 大井徹 (編集長) . アジアのクマの現状と将来 . 日本クマネットワーク編「アジアのクマたち - その現状と未来 - 」 . 2007.06
134. 大井徹, Tin New, Aye Mi San, Nang Wah Wah Min, 濱田穰 (京都大学) . ミャンマー連邦におけるマカクの分布について . 霊長類研究, 23supplement : s-23 . 2007.07
135. 大井徹, 下稲葉さやか (京都大学), 莫継恩 . ツキノワグマ . 日本クマネットワーク編「アジアのクマたち - その現状と未来 - 」 : pp . iii . 2007.06
136. 大井徹, 佐藤喜和 (日本大学), 間野勉 (北海道環境科学研究センター), 山崎晃司 (茨城県自然博物館) . まとめ - アジアでの協同に向けて - . 日本クマネットワーク編「アジアのクマたち - その現状と未来 - 」 : pp.136-137 . 2007.06
137. 大井徹, 鈴木克哉 . 野生動物との新たな関係 (13) - 野生動物との共存をめざして - サル (4) 環境整備による被害防除 . 農業および園芸, 1 : 1-2 . 2008.01
138. 大井徹, 鈴木克哉 . 野生動物との新たな関係 (10) - 野生動物との共存をめざして - サル (1) ニホンザルの行動と生態 . 農業および園芸, 10 : 1-2 . 2007.10
139. 大井徹 . 森林に暮らす哺乳類の子作りと子育て (1) ニホンザル . 森林総合研究所関西支所研究情報, 84 : 4 . 2007.05

140. 大井徹, 濱田穰 (京都大学). ミャンマー連邦における霊長類の生息と調査の現状. 霊長類研究, 23: 45-51. 2007.07
141. 坪田敏男 (北海道大学), 山中淳史, 大井徹. 広島県のツキノワグマの繁殖状況. 日本哺乳類学会2007年度大会自由集会. 2007.09
142. 藤井猛, 大井徹. 広島県のツキノワグマに関する施策と近年の出没、捕獲等の状況. 日本哺乳類学会2007年度大会プログラム・講演要旨集: 135. 2007.09
143. 鈴木克哉, 大井徹. 野生動物との新たな関係 (11) - 野生動物との共存をめざして - サル (2) ニホンザルによる被害の症状. 農業および園芸, 11: 1-2. 2007.11
144. 鈴木克哉, 大井徹. 野生動物との新たな関係 (12) - 野生動物との共存をめざして - サル (3) サルに働きかけ被害を防除する. 農業および園芸, 12: 1-2. 2007.12
145. 澤田誠吾, 金森弘樹, 田戸裕之, 大井徹. 西中国地域におけるツキノワグマの捕獲実態と捕獲個体構成の変化. 日本哺乳類学会2007年度大会自由集会. 2007.09
146. Chie Tamamoto (玉本智枝)(帯広畜産大学), Nobutaka Seino (清野伸隆)(帯広畜産大学), Masatsugu Suzuki (鈴木正嗣)(岐阜大学), Koichi Kaji (梶光一)(東京農工大学), Hiroshi Takahashi (高橋裕史), Hisashi Inokuma (猪熊壽)(帯広畜産大学). Detection of Ehrlichia muris DNA from sika deer (*Cervus nippon yesoensis*) in Hokkaido, Japan (北海道のエゾシカから検出されたエールリヒアDNA). *Veterinary Parasitology*, 150(4): 370-373. 2007.09
147. Hiroyuki Matsuda (松田裕之)(横浜国立大学), Aomi. Ohta (太田碧海)(横浜国立大学), Serow Tatsuzawa (立澤史郎)(北海道大学), Hiroshi Takahashi (高橋裕史), Kunihiro Tokida (常田邦彦)(自然研究所). A risk management model for deer population in the Yakushima World Natural Heritage (屋久島世界自然遺産におけるシカのリスク管理モデル). The ESA/SER (the Ecological Society of America and the Society for Ecological Restoration International) Joint Meeting 2007. 2007.08
148. Hisashi Inokuma (猪熊壽)(帯広畜産大学), Nobutaka Seino (清野伸隆)(帯広畜産大学), Masatsugu Suzuki (鈴木正嗣)(岐阜大学), Koichi Kaji (梶光一)(東京農工大学), Hiroshi Takahashi (高橋裕史), Hiromasa Igota (伊吾田宏正)(酪農大学), Satoshi Inoue (井上智)(感染研究所). Detection of Rickettsia helvetica DNA from peripheral blood of sika deer (*Cervus nippon yesoensis*) in Japan (日本のエゾシカの末梢血から検出されたリケッチアDNA). *Journal of Wildlife Diseases*, 44(1): 164-167. 2008.01
149. Koichi Kaji (梶光一)(東京農工大学), Hiroshi Takahashi (高橋裕史), Hideaki Okada (岡田秀明)((財)知床財団), Masao Kohira (小平真佐夫)((財)知床財団), Masami Yamanaka (山中正実)((財)知床財団). Irruptive behavior of sika deer: comparison of two contrasting populations (ニホンジカの爆発的増加: 対照的な個体群の比較). The 23rd Symposium of the Society of Population Ecology 'Spatial Structure and Dynamics of Ecological System'. 2007.10

150. Mayumi Ueno (上野真由美)(北海道大学), Chiho Nishimura (西村千穂)(北海道大学), Hiroshi Takahashi (高橋裕史), Koichi Kaji (梶光一)(東京農工大学), Takashi Saitoh (齊藤隆)(北海道大学). Fecal nitrogen as an index of dietary nitrogen in two sika deer *Cervus nippon* populations (ニホンジカの2個体群における食物中窒素の指標としての糞中窒素). *Acta Theriologica*, 52(2): 119-128. 2007.04
151. Shiro Tsuyuzaki (露崎史朗)(北海道大学), Hiroshi Takahashi (高橋裕史). Pits conserve species diversity in an overgrazed grassland (過放牧草地では穴が種多様性を保全する). *Applied Ecology and Environmental Research*, 5(2): 25-36. 2007.
152. 高橋裕史. シリーズ森とけもの(4)シカを捕る意味. *山林*, 1478: 50-53. 2007.07
153. 高橋裕史. 森林に暮らす哺乳類の子作りと子育て(3)ニホンジカ. *森林総合研究所関西支所研究情報*, 86: 4. 2007.11
154. 高橋裕史, 梶光一(東京農工大学). ニホンジカの大量死と不嗜好植物の消失. *日本哺乳類学会2007年度大会プログラム・講演要旨集*: 109. 2007.09
155. 高橋裕史, 梶光一(東京農工大学), 横山真弓(兵庫県森林動物研究センター). 資源制限下にあるニホンジカの餌転換. *日本生態学会大会講演要旨集*, 55: 364. 2008.03
156. 山本悠子(東京農工大学), 宮木雅美(北海道環境科学研究センター), 高橋裕史, 小平真佐夫((財)知床財団), 岡田秀明((財)知床財団), 山中正実((財)知床財団), 梶光一(東京農工大学). 対照的な二地域におけるエゾシカ生息地の質と量による評価. *日本生態学会大会講演要旨集*, 55: 472. 2008.03
157. 猪熊壽(帯広畜産大学), 玉本智枝(帯広畜産大学), 清野伸隆(帯広畜産大学), 田邊茂之(帯広畜産大学), 早川大輔(帯広畜産大学), 鈴木正嗣(岐阜大学), 梶光一(東京農工大学), 高橋裕史, 伊吾田宏正(酪農大学), 井上智(感染研究所). エゾシカ末梢血からの *Rickettsia helvetica*, *Anaplasma bovis* および *Ehrlichia muris* DNA の検出. *日本獣医学会学術集会講演要旨集*, 143: 200. 2007.04
158. 立澤史郎(北海道大学), 高橋裕史, 川村貴志(屋久島まるごと保全協会), 松田裕之(横浜国立大学). 屋久島におけるニホンジカの生息状況と個体群管理のあり方 - 市民モニタリングによる合意形成をめざして - . *野生生物保護学会大会講演要旨集*, 13: . 2007.11
159. Mayumi Yoshimura (吉村真由美). Mayumi Yoshimura (2007) Comparison of stream benthic invertebrate assemblages among forest types in the temperate region of Japan. . *Biodiversity and Conservation*, 16-7: 2137-2148. 2007.06
160. Mayumi Yoshimura (吉村真由美). Longitudinal patterns of benthic invertebrates along a stream in the temperate forest in Japan: in relation to humans and tributaries. *Insect Conservation and Diversity*, doi: 10.1111/j.1752-4598.2007.00012.x. 2008.02

161. Mayumi Yoshimura (吉村真由美). Relationship between stonefly assemblages and riparian environment: Case study in mountain stream in Japan . XXX Congress of the International Association of Theoretical and Applied Limnology, Montréal 2007, CD-ROM. . 2007.08
162. 今井健介 (京都大学), 吉村真由美, 夏原由博 (京都大学). 大規模防鹿柵設置設置が渓流水生昆虫に与える影響 (予報). 日本応用動物昆虫学会大会要旨集, 52 : 105 . 2008.03
163. 吉村真由美. 紀伊半島における森林流域植生と底生動物群集. 日本生態学会大会講演要旨集, 55 : 357 . 2008.03
164. 吉村真由美. 底生生物群集の流程分布とその支流における群集構造との関係. 日本陸水学会大会講演要旨集, 72 : 125 . 2007.09
165. Naoki OHNISHI (大西尚樹), Takashi SAITOH (齊藤隆)(北海道大学), Yasuyuki ISHIBASHI (石橋靖幸), Toru OI (大井徹). Low genetic diversities in isolated populations of the Asian black bear (*Ursus thibetanus*) in Japan, in comparison with large stable populations . *Conservation Genetics* , 8 : 1331-1337 . 2007.12
166. 大西尚樹. 日本のツキノワグマの生息状況 - 遺伝学 - . アジアのクマたち - その現状と未来 - : 121-122 . 2007.05
167. 大西尚樹. 森林に暮らす哺乳類の子作りと子育て (2) ツキノワグマ. 森林総合研究所関西支所研究情報, 85 : 4 . 2007.08
168. 大西尚樹. 遺伝子をつかって何が出来るの? 何がわかるの? . 森林総合研究所関西支所年報, 48 : 61 . 2007.10
169. 大西尚樹, 大井徹. ツキノワグマの遺伝的多様性 - 本州西部孤立個体群と本州中部連続個体群の比較 - . 森林総合研究所関西支所年報, 48 : 47 . 2007.10
170. 北村英美 (京都大学), 大西尚樹, 高柳敦 (京都大学). クマ剥ぎ被害の痕跡から加害個体を探る. 日本哺乳類学会 2007年度大会プログラム・講演要旨集 : 136 . 2007.09
171. 鶴野レイナ (慶応大学), 大西尚樹, 東英生 (山形の野生動物を考える会), 玉手英利 (山形大学). 山形県におけるツキノワグマの遺伝的多様性の解析. 日本哺乳類学会2007年度大会プログラム・講演要旨集 : 131 . 2007.09
172. 大西尚樹, 鶴野レイナ (慶応大学), 石橋靖幸, 玉手英利 (山形大学), 大井徹. 東北～近畿の連続個体群におけるツキノワグマの遺伝構成. 日本生態学会大会講演要旨集, 55 : 186 . 2008.03
173. 宮崎祐子 (奈良県森林技術センター), 大西尚樹, 日野貴文 (北海道大学), 日浦勉 (北海道大学). クマイザサのクローン構造と開花様式. 日本生態学会大会講演要旨集, 55 : 141 . 2008.03
174. 黒田慶子. マツ枯れのメカニズムと抵抗性マツの特性. H19年度海岸林学会静岡大会シンポジウム「海岸林と沿岸環境の保全」要旨. 2007.11
175. 黒田慶子. 蝕まれる森林の健康. 月刊公明, '08(3) : 48-54 . 2008.03

176. 黒田慶子. MRIを使って樹木の病気を診断する. 原子力百科事典ATOMICA (オンラインデータベース), (財)高度情報科学技術研究機構(RIST). 2008.02
177. 黒田慶子. シンポジウム「日本林業再生の道 - 現場の取り組み - 」報告. 山林, 2007.11: 36-45. 2007.11
178. 黒田慶子. 樹木講座2: 木部樹液の動きと樹木の健康. 樹木医学研究, 11: 83-88. 2007.04
179. 黒田慶子. 「病原体の侵入に対する樹木組織の反応」 - 発病の兆しを検出する - . 生存圏シンポジウム, 79「樹木の健康を診断する」要旨集: 23-26. 2007.11
180. 黒田慶子. 材線虫病抵抗性のマツを利用したマツ枯れ防除に期待する - 発病および抵抗性メカニズムに関する研究成果から - . 林木の育種, 224: 11-12. 2007.07
181. 黒田慶子(編著). ナラ枯れと里山の健康. 林業改良普及双書157, 全国林業改良普及協会: pp.166, 2008.03
182. 黒田慶子, 川口エリ子(鹿児島県森林技術総合センター). 材線虫病抵抗性クロマツの組織学的特徴と線虫の通過阻害. 日本森林学会大会学術講演集, 118: O11. 2007.04
183. 黒田慶子, 大平峰子, 岡村政則, 藤澤義武. マツ材線虫病抵抗性クロマツ家系の苗木における線虫分布と増殖. 日本森林学会誌, 89(4): 241-248. 2007.08
184. 黒田慶子, 川口エリ子(鹿児島県森林技術総合センター), 宮原文彦(福岡県森林林業技術センター). 材線虫病抵抗性クロマツ組織の線虫移動阻害に関わる形質. 日本森林学会大会学術講演集, 119: A21. 2008.03
185. 黒田宏之(京都大学), 黒田慶子. 抵抗性および感受性アカマツ家系において材線虫感染で発現する遺伝子群の比較. 日本森林学会大会学術講演集, 119: A17. 2008.03
186. 軸丸祥大(広島県立総合技術研究所林業技術センター), 黒田慶子. 抵抗性アカマツ数家系の切り枝におけるマツノザイセンチュウ通過数の比較. 日本森林学会大会学術講演集, 118: C03. 2007.04
187. 軸丸祥大(広島県立総合技術研究所林業技術センター), 黒田慶子. 抵抗性アカマツ数家系の切り枝におけるマツノザイセンチュウ通過数の比較(II). 日本森林学会大会学術講演集, 119: A16. 2008.03
188. 真嶋綾子(京都大学), 黒田宏之(京都大学), 矢崎一史(京都大学), 黒田慶子. 材線虫病に対するアカマツ抵抗性家系間の生化学的比較. 日本森林学会大会学術講演集, 118: C05. 2007.04
189. 川口エリ子(鹿児島県森林技術総合センター), 黒田慶子. クロマツの樹脂道形質とマツノザイセンチュウの移動. 日本森林学会大会学術講演集, 118: O10. 2007.04
190. 浦野忠久. 天敵昆虫による穿孔性害虫の生物的防除は可能か?. 森林技術, 790: 13-17. 2008.01
191. 浦野忠久. サビマダラオオホソカタムシのマツ枯損被害地における放飼試験(土着地域における放飼試験). 森林総合研究所関西支所年報, 48: 48. 2007.10

192. 浦野忠久. サビマダラオオホソカタムシの網室内における移動分散. 日本森林学会大会学術講演集, 118: C09. 2007.04
193. 浦野忠久, 中村克典, 牧本卓史(岡山県林業試験場). サビマダラオオホソカタムシのマツノマダラカミキリ生物的防除への利用における展望. 森林防疫, 56: 224-232. 2007.11
194. 浦野忠久, 牧本卓史(岡山県林業試験場). 野外でマツノマダラカミキリに寄生したサビマダラオオホソカタムシの寄主ステージと羽化状況および羽化成虫サイズ. 日本森林学会関西支部, 日本森林技術協会関西・四国支部連合会合同大会発表要旨集, 58: 25. 2007.10
195. 牧本卓史(岡山県林業試験場), 浦野忠久. サビマダラオオホソカタムシの野外放飼試験 - 野外枯損木への卵放飼試験 -. 日本森林学会関西支部, 日本森林技術協会関西・四国支部連合会合同大会発表要旨集, 58: 26. 2007.10
196. 浦野忠久. サビマダラオオホソカタムシの広葉樹穿孔性カミキリムシに対する室内寄生試験. 日本森林学会大会学術講演集, 119: P2e15. 2008.03
197. 浦野忠久. マツノマダラカミキリの捕食寄生者サビマダラオオホソカタムシの果樹穿孔性カミキリムシ防除への利用の可能性. 平成19年度野菜茶業課題別研究会「虫媒性ウイルス病の防除における天敵利用のあり方」第17回天敵利用研究会三重大会共催研究会資料: 27. 2007.11
198. Kinuura, H. (衣浦晴生). Control method of Japanese oak wilt using aggregation pheromone of *Platypus quercivorus* (Coleoptera, Platypodidae). FFPRI-APACE Satellite Symposium Chemical Ecology of Forest Insects. 2007.09
199. TOKORO Masahiko (所雅彦), KOBAYASHI Masahide (小林正秀)(京都府林業試験場), SAITO Shoichi (斉藤正一)(山形県森林研究研修センター), KINUURA Haruo (衣浦晴生), NAKASHIMA Tadakazu (中島忠一), SHODA-KAGAYA Etsuko (加賀谷悦子), KASHIWAGI Takehiro (柏木丈弘)(愛媛大学), TEBAYASHI Shin-ichi (手林慎一)(高知大学), KIM Chul-Sa (金哲史)(高知大学), MORI. GC-EAD Detection of Novel aggregation pheromone, (1S,4R)-p-menth-2-en-1-ol, of the ambrosia beetle, *Platypus quercivorus* (Coleoptera: Platypodidae). The Asia-Pacific Conference on Chemical Ecology, Abstract: 128. 2007.09
200. 衣浦晴生. カシノナガクイムシの集合フェロモン. 森林総合研究所関西支所研究情報, 86: 2. 2007.11
201. 衣浦晴生. 病原菌の媒介甲虫カシノナガクイムシ. ナラ枯れと里山の健康, 林業改良普及双書157, 全国林業改良普及協会: 45-46. 2008.03
202. 衣浦晴生. 異なる誘引器によって捕獲されたクイムシ類. 日本生態学会大会講演要旨集, 55: 456. 2008.03
203. 衣浦晴生. 養菌性クイムシの行動と樹木の健康 - 微生物との巧妙な連携 -. 生存圏シンポジウム, 79「樹木の健康を診断する」要旨集. 2007.11

204. 小林正秀 (京都府立大学), 野崎愛 (京都府林業試験場), 衣浦晴生. カシノナガキクイムシの接種によるブナ科樹木萎凋病の再現. 森林防疫, 664: 264-276. 2008.01
205. 衣浦晴生, 小林正秀 (京都府立大学), 猪野正明 (サンケイ化学(株)). カシノナガキクイムシ合成フェロモンの純度が誘引力に及ぼす影響. 日本森林学会関西支部, 日本森林技術協会関西・四国支部連合会合同大会発表要旨集, 58: 34. 2007.10
206. 衣浦晴生, 斉藤正一 (山形県森林研究研修センター), 岡田充弘 (長野県林業総合センター), 小林正秀 (京都府立大学), 猪野正明 (サンケイ化学(株)). 揮発制御型製剤を用いた合成フェロモンによるカシノナガキクイムシの捕獲試験. 日本森林学会大会学術講演集, 118: P2h23. 2007.04
207. 衣浦晴生, 斉藤正一 (山形県森林研究研修センター), 猪野正明 (サンケイ化学(株)), 濱口京子. ケルキボロールによるカシノナガキクイムシ誘引試験 - 揮散量とトラップ型の影響 -. 日本森林学会大会学術講演集, 119: P2e09. 2008.03
208. 斉藤正一 (山形県森林研究研修センター), 衣浦晴生, 猪野正明 (サンケイ化学(株)), 中島忠一. 純度の異なる合成フェロモンによるカシノナガキクイムシの捕獲試験. 日本森林学会大会学術講演集, 118: P2h24. 2007.04
209. 斉藤正一 (山形県森林研究研修センター), 市原優, 衣浦晴生, 所雅彦. ケルキボロールと木材抽出物によるカシノナガキクイムシの誘引特性. 日本森林学会大会学術講演集, 119: P2e10. 2008.03
210. 野崎愛, 小林正秀 (京都府林業試験場), 衣浦晴生, 竹本周平, 二井一禎 (京都大学). カシノナガキクイムシ穿入枯死木に対する各種菌類の植菌. 森林応用研究, 16: 1-9. 2007.04
211. Keiko, HAMAGUCHI (濱口京子), Takashi, MATSUMOTO (松本崇) (京都大学), Munetoshi MARUYAMA (丸山宗利) (シカゴ自然史博物館), Yoshiaki HASHIMOTO (橋本佳明) (兵庫県立姫路工業大学), Seiki YAMANE (山根正気) (鹿児島大学), Takao ITIOKA (市岡孝朗) (京都大学). Isolation and characterization of eight microsatellite loci in two morphotypes of the Southeast Asian army ant, *Aenictus laeviceps* (東南アジア産サスライアリ *Aenictus laeviceps* の2つの形態型からのマイクロサテライトの単離とその多型性). *Molecular Ecology Notes*, 7: 984-986. 2007.11
212. 井上大成, 後藤秀章, 牧野俊一, 岡部貴美子, 大河内勇, 濱口京子, 末吉昌宏, 加賀谷悦子. 茨城県北東部の森林においてマレーズトラップで採集されたセミ類. 森林総合研究所研究報告, 6: 249-252. 2007.12
213. 伊藤昌明 (名古屋大学), 濱口京子, 梶村恒 (名古屋大学). 日本列島におけるサクキクイムシ (*Xylosandrus crassiusculus*) の分子系統地理. 日本森林学会大会学術講演集, 118: B36. 2007.04
214. 伊藤昌明 (名古屋大学), 濱口京子, 梶村恒 (名古屋大学). 日本列島におけるハネミジカクイムシの分子系統地理. 日本昆虫学会大会講演要旨集, 67: 57. 2007.09
215. 岡田充弘 (長野県林業総合センター), 加賀谷悦子, 斉藤正一 (山形県森林研究研修センター), 山内仁人 (長野県林業総合センター), 小山泰弘 (長野県林業総合センター), 濱口京子, 所雅彦. 各種トラップを用いた合成フェロモンによるカシノナガキクイムシ捕獲試験. 日本森林学会大会学術講演集, 119: P2e12. 2008.03

216. 加賀谷悦子, 斉藤正一 (山形県森林研究研修センター), 野崎愛 (京都府林業試験場), 岡田充弘 (長野県林業総合センター), 布川耕市 (新潟県森林研究所), 濱口京子. 個体群構造から推定されるカシノナガキクイムシの移動分散様式. 日本森林学会大会学術講演集, 119: P2e03. 2008.03
217. 加賀谷悦子, 斉藤正一 (山形県森林研究研修センター), 野崎愛 (京都府林業試験場), 岡田充弘 (長野県林業総合センター), 布川耕市 (新潟県森林研究所), 濱口京子. カシノナガキクイムシの遺伝的構造の時空間による変化. 日本森林学会大会学術講演集, 118: B35. 2007.04
218. 後藤秀章, 濱口京子, 鎌田直人 (東京大学). カシノナガキクイムシの分類学的検討. 日本森林学会大会学術講演集, 118: B34. 2007.04
219. 升屋勇人, 市原優, 後藤秀章, 濱口京子, 鎌田直人 (東京大学), 窪野高德. *Raffaelea quercivora*の系統地理. 日本森林学会大会学術講演集, 119: P2d02. 2008.03
220. 大村和香子, 桃原郁夫, 濱口京子, 加藤英雄, 金丸和生 (和光コンクリート(株)), 張日紅 (和光コンクリート(株)). 宮崎県に設置した木製ガードレールの生物劣化 - アリ類による営巣・加害事例 -. 日本環境動物昆虫学会年次大会講演要旨集, 19: 30. 2007.10
221. 長谷川元洋, 杉浦真治, 伊藤雅道 (横浜国立大学), 八巻明香 (横浜国立大学), 濱口京子, 岸本年郎 ((財) 自然環境研究センター), 大河内勇. 小笠原父島における陸産貝類の生残と土壌動物群集構造. 土壌動物学会大会講演要旨集, 30: 18. 2007.05
222. 濱口京子. ナラ枯れ最前線 カシノナガキクイムシは2タイプ!? . 林業新知識, 645: 17. 2007.08
223. 濱口京子, 江崎功二郎 (石川県林業試験場), 加藤賢隆 ((株) ニコンインステック), 鎌田直人 (東京大学), 衣浦晴生, 小林正秀 (京都府立大学), 野崎愛 (京都府林業試験場), 加賀谷悦子. カシノナガキクイムシのマイクロサテライトDNAマーカーの開発と, 林分内個体群構造の解析. 日本森林学会大会学術講演集, 119: P2a10. 2008.03
224. 高畑義啓. ナラ枯れとは何か. ナラ枯れと里山の健康, 林業改良普及双書157, 全国林業改良普及協会: 25-44. 2008.03
225. 高畑義啓, 黒田慶子, 伊東宏樹, 大住克博. 滋賀県朽木におけるナラ類集団枯損と森林の変化. 日本森林学会大会学術講演集, 119: P2d04. 2008.03
226. 山田茂樹, 近藤洋史, 齋藤英樹, 鹿又秀聡, 野田巖. 森林資源管理研究. 「この10年のあゆみ: 九州支所創立60周年記念誌」, 森林総合研究所九州支所記念誌出版実行委員会: 62-68. 2007.11
227. 都築伸行, 野田巖, 駒木貴彰. 四国・九州における素材生産業者による土地付き立木購入の実態. 森林応用研究 (日本林学会関西支部), 16(2): 93-99. 2007.10
228. 野田巖. 森林施業のベスト・マネージメント・プラクティス. 森林総合研究所関西支所研究情報, 85: 1. 2007.08

229. 野田巖. ロジスティック回帰モデルを使って立地条件から伐出作業システム型を事前判定する. 森林総合研究所関西支所年報, 48: 49. 2007.10
230. 野田巖, 鹿又秀聡, 齋藤英樹. 木材生産の有望性でみた林地のポテンシャル評価. 日本森林学会大会学術講演集, 118: E19. 2007.04
231. 野田巖, 豊田信行(愛媛県農林水産研究所林業研究センター), 佐渡靖紀(山口県農林総合技術センター林業技術部), 坪田幸徳(愛媛県農林水産研究所林業研究センター). 森林簿における竹林面積の評価と推定への応用. 日本森林学会関西支部, 日本森林技術協会関西・四国支部連合会合同大会発表要旨集, 58: 7. 2007.10
232. 齋藤和彦. 沖縄県国頭村における時系列空中写真判読のための戦後の林業活動調査. 日本森林学会大会学術講演集, 118: E14. 2007.04
233. 齋藤和彦, 高嶋敦史(琉球大学), 加治佐剛(九州大学). 沖縄県国頭村における本土復帰前の林業活動. 日本森林学会大会学術講演集, 119: K08. 2008.03
234. 高嶋敦史(琉球大学), 加治佐剛(九州大学), 齋藤和彦. 沖縄島北部ヤンバル地域S-Tライン付近における過去の森林利用. 日本森林学会大会学術講演集, 119: P3a12. 2008.03
235. 高嶋敦史(琉球大学), 加治佐剛(九州大学), 齋藤和彦. 空中写真から判読した沖縄島北部地域における森林利用・開発の推移. 九州森林研究, 61: 57-60. 2008.03
236. Oku, Hiroazu (奥敬一). Locality on Satoyama resource utilization; Traditional farmhouse told us the characteristics of Satoyama landscape. Woodland Cultures in Time and Space: tales from the past, messages for the future, Abstracts: 70. 2007.09
237. 奥敬一. 文化景観保全の目標設定 - 保全生態学のアナロジーから考える -. 日本森林学会大会学術講演集, 119: K14. 2008.03
238. 鶴飼剛平(東邦物産(株)), 奥敬一, 笹木義雄(柳学園), 森本幸裕(京都大学). 「コウノトリ育む農法」米購入者によるコウノトリおよび農法の理解に関する研究. 環境情報科学論文集, 21: 19-24. 2007.11
239. 奥敬一. 日本造園学会賞受賞者業績要旨 - 林内トレイルにおける景観体験のモデル化に関する研究 -. ランドスケープ研究, 71(3): 253-260. 2007.11
240. 奥敬一, 香川隆英, 田中伸彦(編著). 魅力ある森林景観づくりガイド ツーリズム, 森林セラピー, 環境教育のために. 全国林業改良普及協会: 273pp. 2007.07
241. 奥敬一, 小川菜穂子((株)スペースビジョン研究所). ササやねの里 第一回 ササぶき民家の今. 竹, 100: 10-11. 2007.06
242. 奥敬一, 小川菜穂子((株)スペースビジョン研究所). ササやねの里 第二回 屋根を実際にふいてみる. 竹, 101: 11-13. 2007.09

243. 奥敬一, 小川菜穂子((株)スペースビジョン研究所). ササやねの里 第三回 ササぶき屋根で地域をいかす. 竹, 102: 8-10. 2007.12
244. 奥敬一, 松島洋介(京都大学), 堀内美緒(京都大学), 深町加津枝(京都府立大学). 里山域における文化的景観資源インベントリ. 日本森林学会大会学術講演集, 118: G05. 2007.04
245. 松島洋介(京都大学), 奥敬一, 深町加津枝(京都府立大学), 堀内美緒(京都大学), 森本幸裕(京都大学). 琵琶湖西岸の里山地域における地元住民と移入住民の景観認識の比較. ランドスケープ研究, 71(5): 741-746. 2008.03
246. 森崎彰啓(京都府立大学), 深町加津枝(京都府立大学), 奥敬一. 京都市の緑環境と都市公園整備に関する変遷. 日本森林学会大会学術講演集, 119: K09. 2008.03
247. 森智香(和歌山近鉄百貨店), 深町加津枝(京都府立大学), 堀内美緒(京都大学), 奥敬一. フェアトレードをめぐる大学生の環境意識と消費行動に関する研究. 環境情報科学論文集, 21: 189-194. 2007.11
248. 深町加津枝(京都府立大学), 奥敬一, 三好岩生(京都府立大学). 丹後半島山間部におけるNPO活動による里山再生の動向. 日本森林学会大会学術講演集, 118: G04. 2007.04
249. 水島真(京都府立大学), 深町加津枝(京都府立大学), 三好岩生(京都府立大学), 奥敬一. 琵琶湖湖西地域の里山における溪畔植生の実態. 日本森林学会大会学術講演集, 119: K12. 2008.03
250. 早瀬利香(京都大阪森林管理事務所), 二宮紗矢佳(京都大阪森林管理事務所), 奥敬一. 森林環境教育の実践と評価 - 清水小学校での取組 -. 森林・林業交流研究発表会発表要旨集, 19: 6. 2007.11
251. 大岸万里子(京都大学), 深町加津枝(京都府立大学), 奥敬一, 三好岩生(京都府立大学), 柴田昌三(京都大学). 宮津市上世屋地区における棚田保全に向けた関係者の連携に関する研究. 農村計画学会誌, 26論文特集号: 263-268. 2007.12
252. 堀内美緒(京都大学), 奥敬一. 比良山地東麓におけるクルマによる運搬方法と山林利用. 民具研究, 136: 1-12. 2007.09
253. 堀内美緒(京都大学), 奥敬一, 深町加津枝(京都府立大学). 運搬具にみる比良山地東麓における山林利用の地域性. 日本森林学会大会学術講演集, 118: G06. 2007.04
254. 奥敬一. 平成18年度日本造園学会関西支部大会公開シンポジウム報告「いにしへの京の風土を次代に継承するために」 「京都三山の森林景観の推移と課題について」. ランドスケープ研究, 71(1): 43-44. 2007.05
255. 奥敬一. 琵琶湖よしよしプロジェクトと魚ののぼれる川づくり. 第3回湖岸生態系保全・修復研究会「霞ヶ浦に学ぶ湖岸の生態系保全 - 琵琶湖の湖岸生態系の保全・再生に向けて - 」記録集: 51-56. 2008.03
256. 深町加津枝(京都府立大学), 三好岩生(京都府立大学), 奥敬一. 地域性をふまえた大井川中流域の景観の保全と活用に関する研究. 静岡県戦略課題研究「大井川・伊豆」研究報告書: 19-53. 2008.03

257. 奥敬一. 京都府の里山林の現状と企業との里山づくり. 平成19年度森林・林業基本対策推進事業 里山林再生戦略の確立に向けた基礎調査報告書(林野庁): 99-108. 2008.03
258. 田中邦宏. アカマツ - ヒノキ二段林の成長過程 - 奈良県地獄谷固定試験地の成長の概要 - . 日本森林学会関西支部, 日本森林技術協会関西・四国支部連合会合同大会発表要旨集, 58: 2. 2007.10
259. 田中邦宏, 井上真理子. アナグリフを用いた空中写真判読実習プログラムの開発 - 高等学校森林・林業専門教育課程を対象に - . 日本森林学会大会学術講演集, 118: A11. 2007.04
260. 田中邦宏, 田中亘, 榎山真司, 川村直樹(和歌山森林管理署), 佐々木哲平(石川森林管理署). 白見スギ収穫試験地の林分構造と成長. 森林総合研究所関西支所年報, 48: 55-56. 2007.10
261. 田中邦宏, 野田巖. 紀州地方ヒノキ林分の直径成長について - 長期固定試験地における測定資料から - . 森林総合研究所関西支所年報, 48: 50-51. 2007.10
262. 田中邦宏, 田中亘, 榎山真司, 賀川雄也(三重森林管理署). 茗荷淵ヒノキ収穫試験地の林分構造と成長. 森林総合研究所関西支所年報, 48: 57-58. 2007.10
263. 田中邦宏. 老いてなお盛ん? 高齢級のヒノキ林の直径成長について. 森林総合研究所関西支所研究情報, 84: 2. 2007.05
264. 田中亘. 林業労働力の動向と将来予測. 山林, 1479: 40-47. 2007.08
265. 田中亘, 興梠克久(九州大学), 佐藤宣子(九州大学). 主業的林家の経営動向 - 全国林業経営推奨行事入賞者に対するアンケート結果から - . 日本森林学会大会学術講演集, 118: F28. 2007.04